



金融テクニカル分析マスター(MFTA)

応募論文提出

および

IFTA ジャーナル 投稿規定

の手引き

本書は、MFTA 論文を日本語で提出する者を対象として、IFTA の英文手引書を NTAA が邦訳したものである。誤訳の無いよう十分に注意したが、完璧性を保証するものではない。英語版と本書に差異がある場合は、最新英語版の記述に準拠すること。また、本書は予告なしに変更される場合がある。 2016 年 2 月 9 日

2015 年 3 月 10 日(最終版)

はじめに	4
締切と日程	5
第 1 期	5
第 2 期	5
準備および投稿の書式	6
投稿の書式	6
スペース	6
余白	6
書体	6
行端揃えとハイフンつなぎ	6
原稿の体裁	7
頁番号	8
グラフ、表、図	8
過去の公表物	10
論文書式の詳細 (MFTA 応募論文)	11
概観	11
表紙	11
概要	12
著作権 (主張しない場合は空白頁)	12

謝辞	12
図の一覧	13
表の一覧	13
本文	13
序論	14
材料と方法	14
結果	14
考察	14
要約と結語	14
参考文献	15
2次引用	16
非出版物、個人的見解、会話等	16
巻末注	16
別表	16
引用文献の書式	17
MLA 引用表記法	17

はじめに

本書は、MFTA 論文を作成、投稿し、IFTA ジャーナルへの出版を準備するための手引書である。論文の提出は、MFTA の称号を得るための最後のステップとなる。投稿された原稿は研究結果の学術的解説であり、世界の金融テクニカル分析の知識体系に加えられる。本書が、IFTA ジャーナルへの投稿や論文執筆の一助となることを期待する。

論文や投稿は、ここにあるガイドラインのすべてを満たしていなければならない。投稿方法を理解するため、必要に応じて IFTA 事務局に問い合わせ、IFTA ウェブサイトを確認していただきたい。

提出された MFTA 論文は IFTA ジャーナルへの投稿論文とすることができる。そのため、IFTA は、投稿が専門文献として恒久性を持ち、発表資料として転用可能であり、論理的整合性を持った論文となるよう、体裁を整えるガイドラインを作成した。投稿された論文は、投稿者自身と投稿者が所属する研究機関や組織の評価に影響を及ぼす場合がある。

本ガイドラインからの逸脱は、論文却下の理由となる可能性があるので注意して欲しい。

締切と日程

第 1 期

5月2日：申込み、概要提出、受験料納付期限。概要への回答は通常、応募した年の6月1日までになされる。

10月15日：論文提出期限。所定の書式に従いEメールで提出する。提出期限を過ぎた場合は受理しないので、翌年、2次登録料を支払って再応募することになる。投稿資格を有しない者を対象とした特例を利用して応募する場合は、2月28日までに事前申請し、その後の日程は上記に従うものとする。

第 2 期

10月2日：申込み、概要提出、受験料納付期限。概要への回答は通常、応募した年の11月1日までになされる。

3月15日：論文提出期限。所定の書式に従いEメールで提出する。提出期限を過ぎた場合は受理しないので、翌年、2次登録料を支払って再応募することになる。投稿資格を有しない者を対象とした特例を利用して応募する場合は、7月31日までに事前申請し、その後の日程は上記に従うものとする。

詳細は事務局へEメールで問い合わせること。

準備および投稿の書式

投稿の書式

最終原稿はすべての図表を埋め込んだ WORD 文書として電子的に提出する。PDF 版も提出すること。また、すべての図表について高画質の原図を別ファイルとして提出すること。

スペース

脚注、本文から字下げされている引用句、文書、1 行書きできない参考文献、説明文や表、データやチャートの追補を除きダブルスペースとする。

余白

一部の審査者や場合によっては投稿者自身も論文を印刷するので、それを考慮して標準的なマージンを用いること。例えば左余白は 1-1/2 インチ (3.8cm)、上余白、右余白、下余白は 1 インチ (2.54cm)。頁番号はこれらの余白内に表示する。

書体

フォントは Roman もしくは serif を用いる。例えば Times New Roman、Bookman など。フォントサイズは 11 ポイントまたは 12 ポイント。ラテン語を用いる場合は *et al.*、*etc.* のようにすべて斜体表記とする。

行端揃えとハイフンつなぎ

行端揃えはしなくても良い。字数の多い単語が行末と行頭を跨ぐ場合はハイフンでつないでも良いが必要最小限に留める。ハイフンで頁を跨がないこと。各段落の文頭は 5 文字下げる。

原稿の体裁

論文の頁建ては以下のようなになる:

- ・表紙
- ・概要
- ・著作権(著作権を主張しない場合は白紙)
- ・謝辞
- ・目次
- ・図の一覧
- ・表の一覧
- ・論文本体
 - A. 緒言
 - B. 材料と方法
 - C. 結果
 - D. 考察
 - E. 要約・結語
- ・参考文献
- ・図(文章の中に挿入した場合は任意)
- ・表(文章の中に挿入した場合は任意)
- ・巻末注
- ・別表

頁番号

表紙には付番しない。概要から表の索引まではローマ数字小文字 (ii、iii、iv など) を用いる (論文ひな形参照)。概要の頁番号は「ii」とし、以下連番とする。

論文本体の中 (緒言から要約・結語まで) はアラビア数字 (1、2、3 など) を用いる。本論の最初の頁番号は 1 とし、以下連番とする。頁番号の表示位置は、各ページの下部中央、下余白の中とする。頁番号に文字、句読点その他の付加記号をつけない。つまり「4」とし、「4 -」「p4」「Page 4.」等としない。

グラフ、表、図

グラフ、表、図は文章中に埋め込む。いずれも別々に連番とする。例えば「Figure 1」「Figure 2」、「Table 1」「Table 2」など。ただし、グラフと図はどちらも Figure として扱うことが多い (訳者追加)。

図とグラフ

図はアラビア数字の連番とし文章中で参照される。図の番号は通常、図の下に表記する。スペース 2 個をおいて図のタイトルを書く。図のタイトルは図の内容を説明する短い語句で、通常は文章の一部分である。文章と同じ大文字の使い方をし、タイトル部に付加的な説明文があったとしてもタイトル部の中ではピリオドは打たない。タイトルで略語や記号を使う場合は本文中で説明する。タイトルが 1 行を超える場合は 1 行目が最も長くなるようにする。

出典が明らかな場合はタイトルの最後に括弧書きする。例えば、**Figure 6. The parts of a table**(adapted from *Journal of World Results* 1981;46(2):661)

図は本文中で最初に参照された文になるべく近い位置に表示する。それが難しい場合には次頁以降でなるべく近い位置に表示する。

図は頁の上端か下端に表示する。上端に合わせる方が良い。文章が頁の下端に接している方が視覚的に安定するからである。

グラフのタイトルは、データが何を示しているかを説明する語句になる。例えば、ある出来事の前後の価格変化率のグラフであれば「～の価格変化率」というように。しかし、「～のグラフ」などのように図の種類を表す言葉は用いない。

表

文中の表番号とタイトルは固有のものを用いる。表番号はアラビア数字を用い文章中で参照しやすいようにする。

Table の語から 2 文字空白をおいてタイトルを続ける。タイトル部の中に説明的な文があったとしてもピリオドは打たない。

各表のタイトルは分かりやすく簡潔にする。文章ではなく語句とし、文章と同じ大文字の使い方とする。表のタイトルは表の上部に表示する。タイトル中の用語は本文中で用いるものに合わせる。略語を使う場合には表タイトルで使用する前に本文中で説明する。

表番号は表の左端に合わせるか中央揃えとする。

列見出しは表中の列の内容を明らかにする。表の各列の先頭行には見出しをつけること。文章と同じ大文字の使い方をする。場合によっては、単に単位を表しているなど列見出しが不要なこともある。そのような場合、単位を括弧書きする必要はない。

過去の出版物

MFTA 論文の核心は独自性にある。とはいうものの、応募者が過去に出版した著作物は、MFTA 論文の一部として、あるいは全文を IFTA ジャーナルに掲載することが認められる。ただし、当該出版物は審査基準に耐えるものであり、かつ実質的に応募者の著作であることが条件となる。過去の公表物に共著者があり、共著者が管理者や支援者、監督者であるがゆえに名を連ねており、応募者の名前が序文に挙げられているだけということもある。であれば、謝辞の頁に「本論には以下の過去の公表物の内容を含んでいる:[ここに該当する公表物の情報を網羅する]。これらの公表物にある共著者による研究の管理(支援)、監督のもとに本論は作成された」と表記する。

提出することを了承された過去の著作物に、学界や会社組織によくあるように担当管理職以外の共著者がいれば、応募者は共著者と著作権者が当該資料の使用許諾を与えたことを示す署名した文書を IFTA に提出しなければならない。また、謝辞の項で、すべての共著者に関する詳細について説明すること。過去の著作物の関連ページについてここで明らかにしたうえで提出すること。

論文書式の詳細

概観

以下のページはそれぞれの基準が満たされていること。

表紙

(サンプル参照)

1. 表紙頁の語句はすべて中央揃えとする。「Approved by」とすべての署名は左寄せとする。
2. 書体は Times New Roman などの Roman 体を用い、11 ポイントあるいは 12 ポイントで太字とする。
3. 論文のタイトル(応募論文でない場合は記事のタイトル)はすべて大文字で太字とする。
4. MFTA 論文の場合、2 行下げて「**A thesis submitted in fulfillment of the requirements for the certification of**」と大文字も小文字もすべて太字で表記する。
5. MFTA 論文の場合、「4」の記述から 2 行下げて「**MASTER OF FINANCIAL TECHNICAL ANALYSIS (MFTA)**」とすべて大文字太字で表記する。
6. MFTA 論文の場合、資格名から 2 行下げて「**from**」の文字を太字で表記し、「**INTERNATIONAL FEDERATION OF TECHNICAL ANALYSIS**」とすべて大文字の太字で表記する。

7. 論文の場合、1行下げて著者名、提出の年と月 (**APRIL 2015** など) をすべて大文字太字で表記する。

概要(Abstract)

概要は、研究の焦点、調査方法、主な知見(特筆すべき結果)、結論を簡潔かつ正確に説明した文書である。これは MFTA 論文、IFTA ジャーナル投稿のいずれにも要求される。応募者の業務分野との関連に触れても良い。重要なことは、将来、他の研究者が、その概要を読んで追試をしたり、研究を進める助けとなるように書かれていることである。概要は100～300語程度(日本語換算 200～600字程度)で研究の要点を平易にまとめていること。概要は表紙の直後に置く。

頁先頭行より2行下げて「**ABSTRACT(概要)**」とすべて大文字太字で表記し、中央揃えとする。「**ABSTRACT**」の語から2行下げて論文タイトルをすべて大文字太字、中央揃えで表記する。タイトルが1行を超える場合は1行開けとする。タイトルから1行下げて「**A thesis submitted in fulfillment of the requirements for the Master of Financial Technical Analysis**」と大文字も小文字も太字表記し、中央揃えとする。

著作権(主張しない場合は空白頁)

自身の論文に著作権を主張する場合には、ここで宣言する。著作権を主張しない場合は、空白頁とする。

謝辞

特定の人物や団体から研究の支援を受けた場合には、この頁に献辞や確認する文言を記載してもよい。

図の一覧

1. 「図の一覧」の句を、頁先頭行に中央揃えで表記する。
2. 「図の一覧」の句から 1 行下げて、「図」を左寄せ、「Page」を右寄せで表記する(サンプルを参照の事)。
3. 「図」と「頁」の句から 1 行下げて、最初の図について書く。
4. 1 行(2 行)下げて、次の図の説明と頁番号を書く。すべての図について同様の表記を繰り返す。

表の一覧

1. 「表の一覧」の句を、頁先頭行に中央揃えで表記する。
2. 「表の一覧」の句から 1 行開け、左寄せで「表」、右寄せで「頁」と表記する。
3. 「表」と「頁」から 1 行開けて最初の表を書く。「表」に続けて番号「1.」、2 文字開けて表のタイトルを表記し、右端まで「...」を書き、掲載されている頁番号を右寄せで表記する。表タイトルが 1 行を超える場合は 2 行書きする。
4. 1 行(2 行)開けて次の表を表記する。これを繰り返す。

本文

論文の本文は以下の定めに従うものとする。序論あるいは最初の章の最初の頁は「1」とし、アラビア数字を用いる。

序論

「序論」の項の目的は、読者に課題や疑問を提示することである。序論で研究の概観や目的を簡潔に説明する。課題に関連する文献に言及、論評しても良い。

資料と方法

「材料と方法」の項の目的は、使用ソフトやデータの出典などの資料と、それらがどのようにデータが集められたかといった、論文で使われた方法を簡潔に列挙することにある。また、追試ができるよう、十分な情報が含まれていなければならない。この項では、関係のない情報や説明を書かないように注意すること。

結果

「結果」の項には、この研究で自分自身が発見したことだけを書き、同一分野で他者が発見したことや研究課題についての論評は書かない。図表や別表から明らかになった発見やデータを要約して述べること。

考察

「考察」の項ではデータの分析をする。関連分野の他の分析者、研究者あるいは執筆者自身などと比較し、多少の推測を含んでも良く、適切であれば追加研究を示唆しても良い。

要約／結語

「要約／結語」の項は、研究の目的と発見をまとめる最後の簡潔な文章である。ただし、実在する課題や疑問に関することに限定し、独りよがりや推測を排除するよう注意すること。

参考文献

論文を書く際に実際に参照した文献のみを記載する。本文中に言及がないものは引用としないこと。図表の中で使用した文言などに関する引用も記載する。引用の表記は通常()の中に執筆者の姓を書き、発表年を続ける:(Smith 2014)。

引用が特定の頁からのものである場合は、以下のように記載する:
(Smith 1998, p 73)

同一人物の複数年に跨がる著作から引用した場合:Smith の一連の研究(1958, 1963a, 1963b, 1967)。

同一人物の複数年に跨がる著作:年代順に並べる—Smith の一連の研究(1958, 1967)。

同一人物、同一年の研究:小文字を用いて「a」「b」「c」の順に並べる—Smith の一連の研究(1963a, 1963b)。

同姓異名で同じ発表年の場合:執筆者のイニシャルを表記する;アルファベット順—最近の研究(Dawson GL 1986; Dawson WM 1986)

執筆者が 2 人の場合:「と」で結ぶ:(Dawson and Briggs 1986)

執筆者が 3 人以上の場合:最初の執筆者名を表記し「and others」とし、年号を付す—(Dawson and others 1987)。最初の著作者と発表年が他と同等の場合は、必要な名前を加えて曖昧性を排除する:(Simith, Jones, and others 1990)、(Simith, Jones, Thomas, and others 1990)。

複数列挙:古い順に並べる、発表年が同じ場合は著者名のアルファベ

ット順に並べ、研究が複数の場合は研究毎に「;」で区切る。一連の研究 (Dawson and Briggs 1974 ; Dawson and Jones 1974 ; Smith AL1978; Smith GT 1978; Smith and others 1978; Tyndall and others 1978; O'Conner 1978; Brown 1980)が発表されている...

2次引用

2次引用とは、原著を見て引用したのではなく、原著を参照した文献を見て引用することをいう。原著者名と発表年に続けて参照した文献名とその発表年を書く:原著(Powell 1990, 引用 Forbes, 2006)

非出版物、非公式見解、会話等

この情報は読者が参照することができないので巻末注に含めるべきではない。もし書くとすれば:Robert Smith 言...(個人的会話, April 20, 2014)

巻末注

脚注よりも巻末注の方が良い。巻末注は論文本文の後、参考文献の前に置く。

別表

論文の補完データを表示する最後の項で、複数置くことができる。例えば、使用したデータの表、調査票のサンプル、イラスト、模式図、チャートなど。イラストやチャートが大きすぎる場合は、他の方法を用いても良い(写真、表の項参照)。

引用文献の書式

MLA 引用表記法

MLA(Modern Language Association)は、論文で用いられる引用文献の価値を国際的に確立した団体である。MLAの引用表記法は、単純に2つの部分から成り立っている:アルファベット順に並べた引用文献リストは論文の最後に置く。同時に論文の中で用いられた引用文献は他者が検索、参照できるように表記しなければならない。詳細は以下のサイトを参照のこと。

http://www.mla.org/handbook_faq

MLA 引用表記法の追加情報はコーネル大学図書館のサイトにもある

<https://www.library.cornell.edu/research/citation/mla>

**THE IMPACT ON HIGH FREQUENCY TRADING ALLOGRYPHMS UPON
CLASSICAL PRICE PATTERN RECOGNITION**

A thesis submitted in fulfillment of the requirements for the certification of

MASTER OF FINANCIAL ANALYSIS (MFTA)

By

(NAME)

(DATE: month and year)

From

INTERNATIONAL FEDERATION OF TECHNICAL ANALYSIS

Sample Paper

ABSTRACT

THE IMPACT ON HIGH FREQUENCY TRADING ALGORITHMS UPON PRICE PATTERN RECOGNITION

A thesis submitted in fulfillment of the requirements for the certification

MASTER OF FINANCIAL ANALYSIS (MFTA)

By

(NAME)

(DATE: month year)

From

INTERNATIONAL FEDERATION OF TECHNICAL ANALYSIS

Sed ut perspiciatis unde omnis iste natus error sit voluptatem accusantium doloremque laudantium, totam rem aperiam, eaque ipsa quae ab illo inventore veritatis et quasi architecto beatae vitae dicta sunt explicabo. Nemo enim ipsam voluptatem quia voluptas sit aspernatur aut odit aut fugit, sed quia consequuntur magni dolores eos qui ratione voluptatem sequi nesciunt. Neque porro quisquam est, qui dolorem ipsum quia dolor sit amet, consectetur, adipisci velit, sed quia non numquam eius modi tempora incidunt ut labore et dolore magnam aliquam quaerat voluptatem. Ut enim ad minima veniam, quis nostrum exercitationem ullam corporis suscipit laboriosam, nisi ut aliquid ex ea commodi consequatur? Quis autem vel eum iure reprehenderit qui in ea voluptate velit esse quam nihil molestiae consequatur, vel illum qui dolorem eum fugiat quo voluptas nulla pariatur? At vero eos et accusamus et iusto odio dignissimos ducimus qui blanditiis praesentium voluptatum deleniti atque corrupti quos dolores et quas molestias excepturi

Sample Paper

Copyright© by

NAME

YEAR

ACKNOWLEDGEMENTS

This is the place to acknowledge your family, your committee, your advisor, your friends, companies, organizations and people who provided special help and anyone else who made your thesis possible. Use of special copyright materials, acknowledgements of co-authors, *etc.* should also be included in your acknowledgements. Your acknowledgements may, but should not exceed one page.

Sample Paper

TABLE OF CONTENTS

Page

ABSTRACT	
ACKNOWLEDGEMENTS	
LIST OF FIGURES	
LIST OF TABLES	
1	INTRODUCTION
1.1	First Subheading
1.2	Second Subheading
1.3	Third Subheading
1.3.1
2	MATERIALS AND METHODS (OR METHODOLOGY)
2.1	First Subheading
2.1.1	Second Subheading.....
2.1.2	Third Subheading.....
3	RESULTS
3.1	First Subheading
3.1.1	Second Subheading.....
4.	DISCUSSION
4.1	First Subheading
4.1.1	Second Subheading.....

5. SUMMARY OR CONCLUSION.....

5.1 First Subheading (i:e: FUTURE WORK).....

6. REFERENCES

7. ENDNOTES.....

APPENDIX A, FIRST APPENDIX CITED IN TEXT

APPENDIX B, SECOND APPENDIX CITED IN TEXT

Sample Paper

LIST OF FIGURES

	Page
Figure 1 A trade frequency graph during election	1
Figure 2 Photo of <i>Homo sapiens</i> being predated.....	12
Figure 3 Geographies of trade localities.....	45
Figure 4 Pie Chart showing the change size during 2012.....	48
Figure 5 Graph of predatory trading characteristics.....	64

Sample Paper

LIST OF TABLES

	Page
Table 1 Number of trades in six different sites	10
Table 2 <i>Deinonychus antirrhopus</i> fat finger lengths.....	12
Table 3 Correlation coefficients using factor analysis.....	18
Table 4 Restaurant sites near banks.....	25
Table 5 Hair thickness of <i>Homo sapiens tradicus</i>	30
Table 6 Table of trade characteristics.....	32

INTRODUCTION

1.1 FIRST HEADING

The Introduction is your first chapter. The purpose of the Introduction is to introduce the reader to the problem. The Introduction is a concise statement of the problem and an outline of the scope, aim, and nature of the research. It should also include a review of the literature pertinent to the subject. Your introduction should lead the reader by the hand and allow him or her to understand what problem you are solving and how you are solving it. It should lead the reader into the thesis. Note that each new chapter section is two inches from the top of the page, capitalized, bold and centered. The Introduction starts on page 1 of your thesis or submitted paper.

MATERIALS AND METHODS

2.1 FIRST HEADING

The purpose of the Materials and Methods is to recount, in a concise manner, the materials and methods employed in your work. It should also include sufficient information so that the study could be repeated. Also, caution must be used to avoid including results and/or conclusions.

Sample Paper

First Subheading

Subheadings are used to divide a chapter or section into discreet sections. Each subhead should be distinctly different from the others. For example the 1st subhead of this chapter is flush left, capitalized and lower case letters, and bold.

Second Subheading

The second subheading is indented, capitalized and lower case letters, and not bold. Thus, it looks different from the first subheading. All subheadings should meet the criteria of the journal that the thesis is intended for.

Sample Paper

RESULTS

The results reflect the findings of your study only, not the findings of other researchers or practitioners in the area. Your results are a summarized form of the data that may appear and be supported in the figures, tables and/or appendices. Care must be taken to include only results in this section. Do not include interpretation or discussion here. You will interpret your data in the next chapter.

Sample Paper

DISCUSSION

The Discussion section is for an analysis of your data and study acquired. In this section, you may draw comparisons with findings of other or even speculate to some degree and, if appropriate, suggest additional research. It is in this section that you will interpret the data you presented in the previous section.

Sample Paper

SUMMARY OR CONCLUSION

Some authors prefer to title this chapter “Summary,” while others prefer to call it “Conclusion.” The Summary or Conclusion is a final brief statement which draws together the objectives and findings of the entire project. Care should be exercised to draw conclusions pertinent only to the problem, not to introduce new topics, and to avoid personal bias.

Sample Paper

REFERENCES: LITERATURE CITED OR CITATIONS

Literature cited includes only the literature that you actually reference in your thesis or paper. Do not include citations that are not mentioned in the text. Be sure to include all citations that might appear in the figure captions and table headings. In general, the guidelines of the MLA Style Manual of the Modern Language Association should be followed.

ENDNOTES

The note provides an author's comments on the main text or citations of a reference work in support of the text, or both.

APPENDICES

A last section may contain supporting data for the text in the form of one or more appendices. Examples of appendix material are data sheets, questionnaire samples, illustrations, maps, charts, or a bibliography. For clarity and to distinguish from body of text, each Appendix should be paginated with Roman numerals, starting at capital I.

Sample Paper